

Special Review  
of Biggest Tournament



# 日本女子、 9年振りの タイトル奪還

## 寛仁親王牌 第46回全日本選手権大会

昨年の11月、シーズンを締めくくるトーナメントとして華やかに開催された『全日本選手権』。中でも女子ナインボールの部では、21年振りの日本人プレイヤー同士の決勝が実現。ここで、これまで全日本3度優勝の梶谷景美が、2013年MVPを獲得した河原千尋を破り、自身4度目、9年振りの制覇を果たした。ここでは、久々に日本にタイトルをもたらした梶谷のインタビュー他、女子決勝の詳細な解析、さらに男子テンボールの部で日本人最高位となった北谷好宏のインタビューで、全日本選手権大会を改めて振り返る。

# 久しぶりに日本人が 勝ったことが「良かった」です

セミ・ファイナルで自らが周婕妤(台湾)を、  
頼れる後輩の河原千尋が蔡佩真(台湾)を倒した時、  
梶谷景美は安堵の溜息をもらした。  
「国内最高のタイトルを久しぶりに諸外国勢から守ることができた」。  
1992年の初優勝は、偉大な先輩プロとの  
日本人対決を無我夢中で戦って得た勲章。  
それ以降、日本の女王として世界の最前線で戦い続ける中で、  
主体は徐々に「自分」ではなく「日本」になっていった。  
そして、自身21年ぶり4度目の優勝。  
出てきた言葉は、「日本にとって良かった」だった。  
取材・文・写真(P29,33) / 小林亨(BD)

1st part

Interview with  
Japanese Pool Queen

# 梶谷景美

21年振りの日本人ファイナルを制して  
4度目の全日本制覇



# 「日本の女子も捨てたもんじゃない」 って思ってもらえるものにな ったんじゃないかなって

——決勝戦の直前、「21年ぶりの日本人対決です」というアナウンスに、カクツとなっていましたね(笑)。

梶谷景美(以下、梶) なりましたね(笑)。「そうかあ、21年ぶりか。それっていつだ?……あつ、私か!」と。

——92年ですね。梶谷プロが原田美恵子さん(元プロ)と対戦して、初優勝を飾った年です。

梶 あの頃は私達の世代が、原田さんや嶋崎さん(和子・元プロ。故人)などの胸を借りて、がむしやらにやっていた時。自分が全日本選手権のファイナルを撞けるなんてことは考えてもなかったし、目の前の球を一生懸命撞いてただけでした。でも、今の河原千尋プロなんて若くしてすでに日本のトップじゃないですか。だから、「全然違うな、私の時」と思ってた笑ってしまっただけですよ。

——あの一瞬で色々なことが頭の中を巡っていた?

梶 試合が始まってからも思っていましたね。「21年前のあの日があったから、私は今ここにいるんだろうな」とかね。「ほんと、あの頃の私はただ必死に撞いてただけだったなあ」って。

——この4度目の優勝は、過去3回と比べてどういふものでしょうか?

梶 「良かった」ですね。嬉しさもあるけど、その前にもう本当に良かったなっ

て。前回(04年)は嬉しき、99年は東京に移り住んで2年目で必死、初優勝の92年は……訳わからん(笑)。

——(笑)。なぜ、今回は嬉しきより先に「良かった」なんですか?

梶 やっぱ日本人同士の決勝戦になっただけですよ。河原プロも私も、準決勝で台湾勢をちゃんと止めて上がって来られた。それですごくホツとしたからね。つまり、ファイナルは「どちらが勝つても」という気持ちもあつた?

梶 そうですね。久しぶりに日本人が勝つたことが「良かった」です、私の場合はね。河原プロは悔しい気持ちかもしれない。彼女は大舞台のファイナルで私を倒すことが長年の目標だと聞いたことがあるから。

——ええ、私もそう聞いています。一方で、梶谷プロは日本女子ビリヤード界にとつて「良かった」と?

梶 そうね。特に海外の試合に行っている日本選手は私を含めて皆、周囲から応援されて送り出されているのに、なかなか良い結果が出せずにもどかしい思いをしていたと思うんですよ。その中で今回の全日本選手権は、「日本の女子も捨てたもんじゃない」って思ってもらえるものになつたんじゃないかなって。それはこの先に繋がるでしょうか。「じゃあ来年も世界に出て行く日本人を応援しよう」という風だね。そして、後は河原プロ達に頑張ってもらって……。

——いやいや、梶谷プロも(笑)。

梶 私は私のペースでね(笑)。

——少し脱線しますが、梶谷プロが河原プロを見ていて「自分も昔はあんな感じだったな」と思うことはありませんか?

梶 いや、全然違いますね。まず性格が違う。なんせのんびりしてるからねえ、河原プロは(笑)。

——プレー面も?

梶 違いますね。私の方が雑(笑)。河原プロを見ていて、あんなにきつちり毎回同じルーティンで構えに入れるのはすごいというか、珍しいなっと思ってます。私にはできないですね。機械に近付こうとしているのかなとも思いますね。

——梶谷プロには過去そういう願望はなかったですか? 「もつと機械のように撞けたら」って。

梶 若い時に思ったことはありませんよ。「真つすぐさえ、機械のように振れば」って。でも、人間がやる以上、どうしても感情が入るからね。「入れ!」って思う球が当然あるから。私は機械を目指すのは無理があると思っただけですよ。

## この環境のおかげで、 質の良い一人練習が できましたね。

——優勝までの道程を具体的にお聞きします。まず大会前の調整はどうだったんですか?

梶 今回は例年以上に一人での練習がしつかりできましたね。このサロンのおかげで集中できました(※取材場所にもなった都内の『T.S.P.』(株式会社 Advance

傘下)。「フランスウィックV」テーブルがある)。

——初めてここに来ましたが、とても良い環境ですね。

梶 でしょう。「プロのためのプライベートサロン」というコンセプトで作られています。私は昨年2月からここで練習しています。全日本選手権前の練習量はトータルでは例年と同じぐらいなんですけど、この環境のおかげで、質の良い一人練習ができましたね。

——そして本番。まず予選は、元廣麗子プロに勝って通過しました。

梶 例年より初戦の入りが良かったと思います。今回は大会初日に試合がなくて会場ですつと観戦していたし、前日練習もちゃんとできていて、それが良かったんでしょうね。そして、元廣プロは少し硬かったかな。

——翌日、決勝トーナメント・ベスト32で江辺香織プロと対戦。

梶 このところ江辺プロは気持ち良さそうに球を入れてる印象があったので、どうなるかなと思ってました。でも、彼女のミスが私が入りやすくなる展開になってスコア差が付きましましたね。

——大会最終日はベスト16から4試合。前夜にイメトレをしたり、戦い方をプランニングしたりしましたか?

梶 それはあまり。ただテールコンディションは少し気にしてたかな。16台中10台が例年と違って、ラシヤ、クツション共に速い(ボールがよく転がる)状態で、穴幅も広めでした。テーブル自体の



かじたに・あきみ 1968年12月8日生  
 大阪府出身・東京都在住 JPBA24期生  
 国内での獲得タイトルは100を超え、『世界選手権』など海外戦でも多数の入賞実績を誇る「日本の女王」。昨年の『全日本選手権』では、'92年、'99年、'04年に続く4度目の優勝を飾った。また、『ジャパンオープン』では3連覇を含む5度の優勝がある。日本女子ポケットビリヤード界最高の選手であり、そのプレーにファンや後輩達の尊敬の視線が注がれる。所属・専属/ADAM JAPAN、MECCA

仕様も変更されていたそうです。残る6台は例年通りでしたけどね。  
 ——混在していたんですね。

梶 ええ。私は大体1試合ごとに速いテールとそうでないテールを交互に撞いてました。ただ、私は秋から『ナインボール世界選手権』（中国）、『北陸オープン』、『テンボール世界選手権』（フィリピン）と、ずっと新（さら）ラシヤで撞いていたし、このサロンでも新ラシヤで練

習していたので、新（さら）に慣れていた点は良かったですね。

——では、最終日を振り返ります。ベスト16の藤原和子プロ戦は、相手に先行を許す厳しい試合でしたね。

梶 やっぱ朝イチの試合は身体が動きませんね（笑）。藤原プロも良かったですよ。6—1くらいまで行かれたのかな。私も後半は気持ちを切り替えて撞けましたけどね。

——ベスト8は魏子茜（台湾）戦。こちらは一転して梶谷プロ主導の展開。

梶 魏の調子もそこまで良さそうではなかったし、最後までコンディションに対応できてなかったです。ああいうコンディションは台湾でも多いはずですけどね。『アムウェイオープン』とか。

——そして、セミ・ファイナルの相手は台湾トップの周婕妤でしたが、梶谷プロが良い状態を維持しているように見えま

した。

梶 悪くはなかったですね。でも、やっぱり彼女は巧くて強いので、勢い付けさせるのだけは避けたかった。私が8—5でリーチをかけて、上がりの⑧をミスした時は、「これを取られてマスワリ3連チャンされるまであるな」って思いましたよ。結局、次のラックで彼女が⑤をミスしましたが、それはあの台が「渋い方の台」だったからです。

——セミ・ファイナルの反対の山では、河原プロが台湾の蔡佩真と対戦していました。

梶 組み合わせが逆じゃなくて良かった。河原プロは今年の『ジャパンオープン』の決勝でも蔡に勝っていて、蔡もやりづらそうにしている。一方、私は相性が悪いのか、蔡には負け続けているんです。日本人ファイナルが実現した時は、その意味でもホッとしましたね。

——ちなみに、セミ・ファイナルの前に河原プロと喋ったりはしましたか？

梶 周囲の人達が「頼むで！ 2人とも勝って日本人で決勝な！」みたいな感じになってたんで、2人で「したいねえ」くらいは言っていましたね。

やっぱりこれまでの練習と、「決めて撞く」ことができたおかげでしょうね。

——そして、その日本人対決はシーソーゲームになりました。

梶 互いにブレイク後の取り出しの形や



——そして最後のゲーム（第16ゲーム）もマスワリでした。

**梶** あれはもう、一つ前に比べたら全然怖くありません。

——取り切り・マスワリ・マスワリで上がってガッツポーズという、実にカッコ良い締め切り方でした。

**梶** そうでした？（笑）でも、ガッツポーズは一昨年のジャパンオープンの時比べたら小さかったね（笑）。

## 優勝することですよね。結果にこだわらなくなった時が辞める時でしょう。

——これで全日本選手権4勝、ジャパンオープン5勝。プロになられて約24年、ずっと輝かしい活躍を続けておられますが、その秘訣は何でしょうか？ 例えば、体力は維持しているんですか？

**梶** いや、体力は落ちてますよ。身体にも状態の良くないところもあるし。

——フィジカルトレーニングなどは？

**梶** してないですね。反対に悪い部分に負担をかけすぎちゃうんで。だから身体を伸ばしたりするくらいです。

——となると、ビリヤードの練習を欠かさず行うことで維持しているということでしょうか？

**梶** そう、やっぱり練習でしょうね。20代の頃は撞けば撞くほど上手くなっていったことは自分が一番わかっています。でも、今はそうじゃない。まず、今

までの自分をキープする必要がある。

——まず、キープする。

**梶** そう。しんどいことですよ。キープしながら少しずつでも上がっていきたくて思っているけど。でも、私の場合は長時間ダラダラ練習しても意味は無いと思うから、ガッツと集中して数時間ですね。35歳くらいからそういう感じかな。あとは対戦形式でどれだけ試合感のある練習ができるかということだと思います。

——試合感ですか？

**梶** そうそう。本番感と言うかね。そのためには練習でもちゃんと考えながら撞くことが大事だと思うし……。やっぱりビリヤードは難しいですもんね。私も25年やっててもわからない部分はまだ半分以上ありそうなので。

——半分以上もですか？

**梶** そうですよ。だから会場では試合を観ているんです。「この人、この球をどう撞くんだろう？」っていうのは、ゲームの流れとスコアからは絶対に切り離せないと思ってるから。

——わかりました。最後に、今年はどういう1年にしたいですか？

**梶** やっぱり勝たないとね。優勝することです。結果にこだわらなくなりました。辞める時でしょう。出るからには「目指すは一番上」っていう気持ちでね。いつかその気持ちが衰える時が来るんだと思うけれども、まだそうならないという事は、「まだやれるんじゃないか」というか、「やらなきゃいけない」と思っています。

序盤の配置が結構渋くて、行き切れない感じでした。そして、河原プロがらしくなかったかな。普段の彼女なら、一度良い集中状態に入るとずっと展開を握るんだけど、やっぱりブレイクで途切れちゃうのか、そうはならなかったから。私、後でこの試合の映像を観たんですけど、私はそういう展開に焦ってないように見えましたが、でも、河原プロの方には焦りがあつたかもしれない。

——勝負を決めたのは、終盤の梶谷プロの⑧のシュートでしたね。河原プロの7-6リードで迎えた第14ゲーム。河原プロの⑧セーフティが甘くなった。……と

はいえ、ロングの薄い球でした。

**梶** あの⑧はよく撞けました。手球が⑨に当たったことも想定内です。配置をばつと見た時に「攻める！」と決め切れたのが良かったんでしょね。ツーウェイ（アンドセーフ）を捨てて攻めに徹したんです。そして、その姿勢が次のゲーム（第15ゲーム）のマスワリに繋がった。あれは今大会で一番緊張したマスワリです。④、⑤、⑦と厳しい形ばかりになって、特に④はカーブで狙うしかなかった。あれを取り切れたのは、やっぱりこれまでの練習と、「決めて撞く」ことができたおかげでしょうね。

Special Review  
of Biggest Tournament

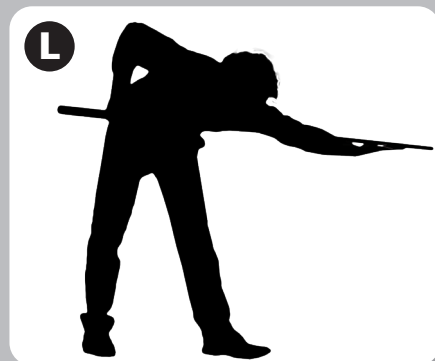
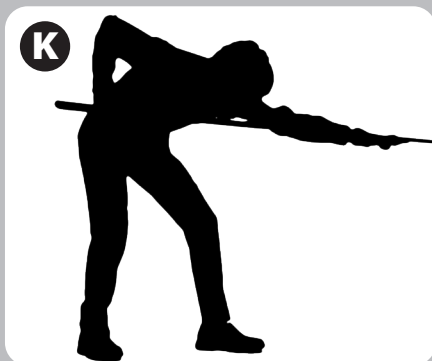
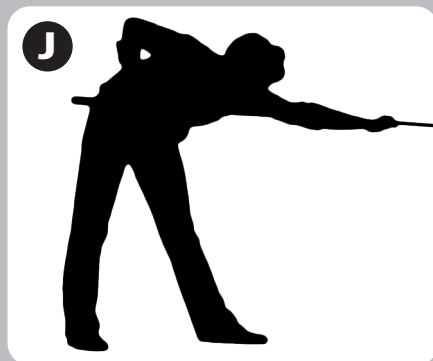
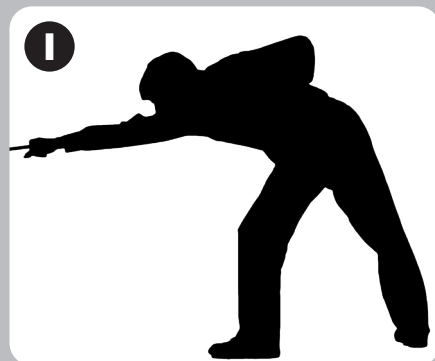
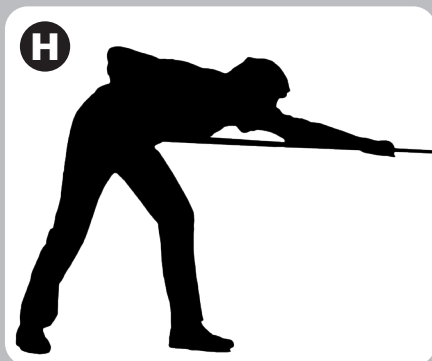
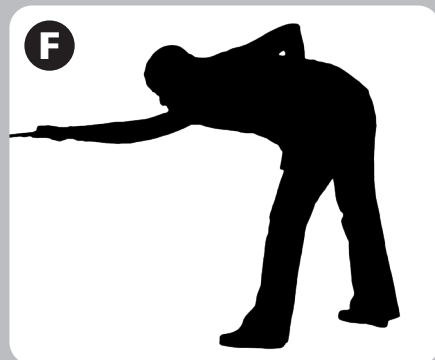
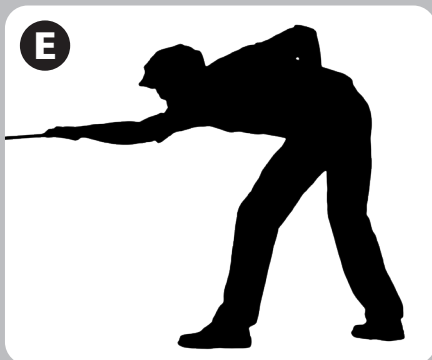
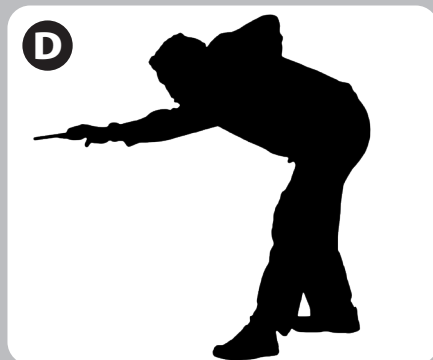
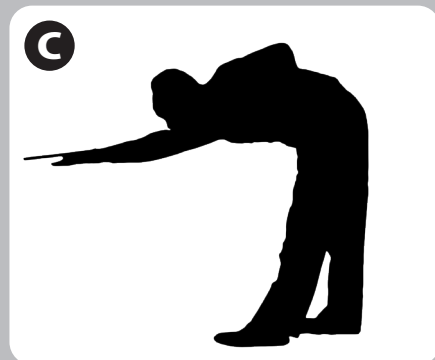
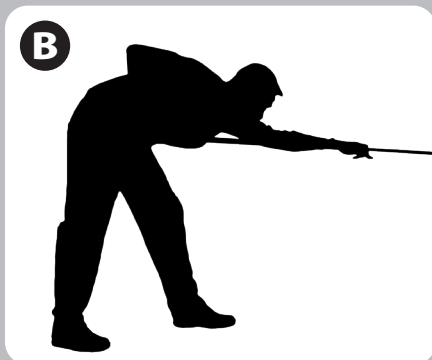
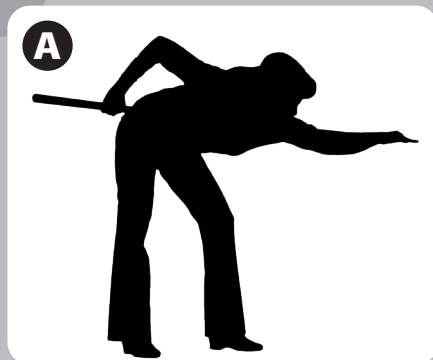
寛仁親王牌  
第46回全日本選手権大会



# 12Players Silhouette Quiz!

Column  
全てわかれば  
アナタも  
ビリヤード通!

ここでちょっと一息ついてクイズにチャレンジ! シルエットになっている12名のプレイヤーは、  
全日本選手権に出場して活躍した国内、海外のトッププロです。  
それぞれのフォームの特徴をよーく見て誰なのかを当ててみてください。  
じっくり観察することで、ちょっとしたイメージトレーニングにもなるかもしれませんよ。



●答えは42ページ!